

# 翠風園 ひかり通信

第10号



発行月： 平成27年12月  
制作・発行： 社会福祉法人 正瑛会  
デイサービスセンター翠風園  
ヘルパーステーション翠風園  
グループホーム 翠風園  
理事長 野水 清志

所在地： 〒950-1236  
新潟市南区高井東2丁目13番33号  
連絡先： 025-362-7600  
ホームページ：<http://www.suifuen.jp/>



プリムラオブコニカ  
(花言葉) 神秘的な心・幸福感

## ご挨拶

グループホーム  
計画作成担当者 浅間 容子



グループホーム翠風園も、開設して十一年目になります。利用者の方々とも尊いご縁に導かれて、出会う事が出来ました。始まりの一步は小さな出会いから、次第に利用者の皆様と共に働く職員と、絆を深めて行くことの楽しさ、難しさ、奥深さに魅せられて、ここまで続けて来られたのだと思います。

大勢の利用者様との思い出は尽きませんが、その中でも、いつも私達職員に手を合わせ「ありがとうございます」と言葉をかけて下さるK様がおられました。今年の初めの書き初めに、何を書こうかと迷っていらっしやったK様に、私はそつと「K様はいつも『ありがとうございます』と言って下さいますよね」とお話しすると、K様は力強く迷い無く「ありがとうございます」と書いて下さいました。私はK様のお姿と、ありがとうございますの文字から伝わる感謝の想いに、胸がいっぱいになり涙が溢れました。

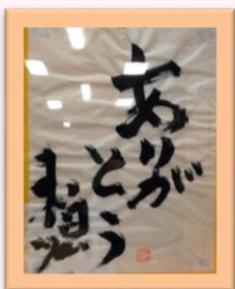
しかしその数日後、K様は突然倒れ、ご家族の希望もあって園での看取りとなり、一週間後ご家族と職員に見守られながら旅立たれました。

「ありがとうございます」の書き初めは、K様の絶筆となりました。しかしその一言にK様のご家族への感謝、私達職員への感謝を込めて下さったのだと、胸に染み入るように感じました。

日々勤める中で己の未熟さを痛感する事も多々ありますが、この看取りをさせて戴いた経験を糧に、次に生かして参りたいと思えます。利用者様の医療的なニーズも高くなってきており、医療、看護、介護など多職種との連携が必要です。情報を共有し、学び、チームケアで「支えるケア」を目指します。

毎日いっぱい笑い、時に涙しながらも「ありがとうございます」の感謝の気持ちを持ち続けて参ります。

今後とも、宜しくお願い致します。





## 育てて戴いた事 への感謝祭

### デイサービスセンター グループホーム

平成二十七年八月二十日から二十六日にかけて、デイサービスセンターとグループホーム合同で「育てて戴いた事への感謝祭」という行事を行いました。

これまでも地球様への感謝祭を始め、十年にわたり様々なものへの感謝祭を行って来ました。私達職員は皆、利用者様や、周りの方々育てて戴いて来ました。この育てて戴いた恩義は、自分達が後輩を育てる事でしかお返し出来ない、翠風園で教わり、今回のテーマは「育てて戴いた事への感謝祭」になりました。

利用者の皆様には、それぞれの人生の中で教わった事の中から、「この事は、後輩に、後世に伝え残したいと思う教え」を考えて戴きました。

感謝祭当日は、利用者様の歩んで来られた人生や、熱い想いを受け継がせて戴きたいと思ひながら、真剣にお聴きました。

#### ・デイサービスセンター 九十三歳の女性利用者様

人生は我慢と努力だと思ひます。私は自分の子供に「結婚する時は苦勞をした人としなさい」と言つて来ました。苦勞した人は、人の氣持ちが理解出来るからです。私は小さい頃に苦勞して来たからこそ、人様の氣持ちが分かり、今は幸せで居られます。人の親切が身に染みています。

第一は人様に感謝すること。文句を言う前に我慢すること。相手の事を理解すること。そして、親に対する恩は忘れないこと。お互い理解し合えば、上手くやっていけると思ひます。

#### ・デイサービスセンター 八十九歳の女性利用者様

私は翠風園から育てて戴きました。知らない方ともお話をし、心が通じ合う喜びを感じました。お話をする喜びを知りました。自分の心に種が宿つて芽が伸び、木がすくすくと伸びて行くような喜びを知りました。

#### ・デイサービスセンター 九十歳の女性利用者様

親は真面目だったから、真面目に育てて貰いました。だから私も間違えた事をしない様に、親の言う事をよく聴いて育ちました。今の人はぎっくりばらん過ぎるといふ事を感じます。今の人は乱れ過ぎていふと思ひます。



・デイサービスセンター 九十四歳の女性利用者様

自分の力で今日まで生きて来た訳ではありません。淋しい事もあって、今の幸せ、喜びがあります。(息子さんが亡くなって) 亡くなった人を想えば想う程、頑張ろうと思います。学校の先生から受けた教育が、今の私の基本となっています。だから、先生に感謝しています。

【後輩の皆さんへ】人生を振り返る事が大切です。

そして正しく生きる事が大切です。

・デイサービスセンター 八十七歳の女性利用者様

人との触れ合いが一番です。人があって、自分。人という字は棒が二本。私の年代は戦争もあったし、親が早くに亡くなって、働いてきました。姉妹も全部嫁に行かせたり、苦勞しましたが、商売していてお客様に育ててもらったと思います。一番に思った事は、「人があっての自分」だという事でした。翠風園に来て、人との触れ合いが一番だと思っています。

・グループホーム 八十九歳の女性利用者様

私はこの園にいると幸福で「ここがいちち(一番)良い」と、皆様のご親切の中で育てて戴き暮らしています。若い皆さんには、「感謝を忘れないように」を伝えたいです。

・グループホーム 九十八歳の女性利用者様

主人は寡黙な人でしたが、有り難うとはいっても言っておきました。私は教わりました。生活の中で感謝する「ありがとう」、これが一番の礼儀であり、幸せのもとです。こうした事が人間最高の形の表れです。若い皆さんは、素直に「ありがとう」を声に出して感謝して下さい。

・グループホーム 八十六歳の男性利用者様

自分が出来ない事が多くなっている事を皆様から助けて戴き、こうして生きていられる事に感謝です。「ありがとう」の想いは、幾つになっても、又いつでも言う事を忘れてはいけない事を伝えたいです。

次に、感謝祭で上映しました、「育てて戴いた事への感謝」のナレーションの文章をご紹介します。

映像とナレーションは、今回の行事担当でもある、介護職員の鈴木敦夫さんが作成しました。

文章作成の過程で、行き詰まった時があったそうですが、尊敬する先輩に「何事も、自分の実体験に置き換えて考える」こと等を、一つひとつ指導して戴いて完成したと話して下さいました。

感謝祭当日は、鈴木さんの体験から紡ぎ出された、言葉の数々が胸に染み渡りました。

そして、利用者様も「そうだね、そうだね」と、共感されながら聴き入っていました。

## 「育てて戴いた事への感謝祭」

私達が赤ん坊の時、お母さんや子守りをして下さる方が、何から何まで世話をして、育てて下さいました。

子どもの時、親や先生から、大人になる為の大切な事を教えて戴きました。

仕事も畑も料理も、全ての事は、教えて下さる方がいて、出来るようになりました。

やがて自分が親になり、子どもを育てる立場になっても、子どもから自分が育てられました。

どんな時も育てて戴く方々がいて下さったお蔭で、私達の人生は豊かになりました。

私達は、大自然にも育てて戴きました。

大自然は、互いに育て合う姿に満ちています。

雨は山野の緑を育て、その水は川となって平野を潤し、

川は海に集まって海の生き物を育てます。

海の水は蒸発して雲になり、また雨となって大地に降り注ぎます。

土の栄養で草木が育ち、草木を食べて虫が育ちます。

虫を食べて鳥や小さな動物が育ち、その動物を食べて大きな動物が育ちます。

草木が枯れ、動物が亡くなると、腐って土の栄養になります。

命ある生き物が、食べ物になる事で別の命を育てるといいます。

「命の循環」によって、豊かな自然が受け継がれてきました。

私達も食べ物によって、この肉体を育てて戴きました。



このように私達は、あらゆるものから  
肉体も精神も育てて戴きました



私達も食べ物によって、  
この肉体を育てて戴きました

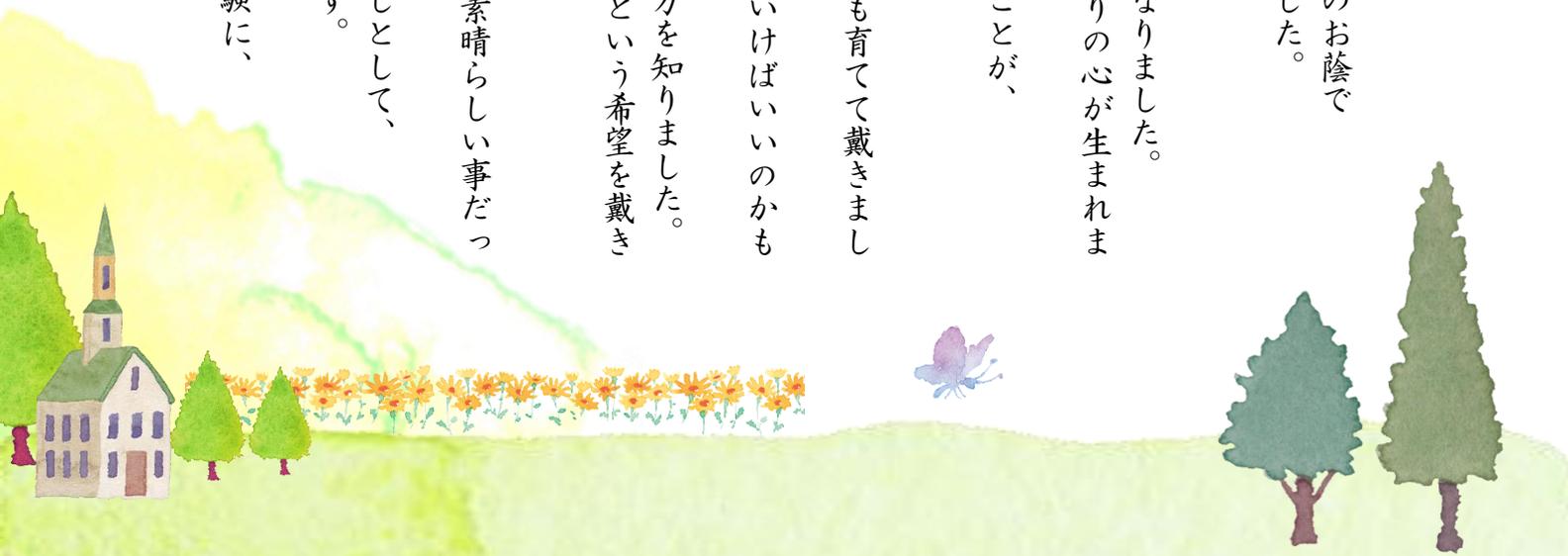


また雨となって大地に降り注ぎます

( ナレーションに合わせて、映像を制作しました )



私達はまた、「精神」も育てて戴きました。  
叱られたり、褒められたり、幼い自分を導く方々のお蔭で  
責任感を身につけ、協調と調和の大切さを知りました。  
そして、色々な体験から、私達は育てられました。  
苦しい体験から、忍耐力を培いました。  
失敗の痛みは、自分を深く見つめて向上する力になりました。  
悲しい経験から、同じ経験をした仲間に対する労りの心が生まれま  
した。  
そんな人生の一つ一つの体験をしつかりと味わうことが、  
精神を養う栄養でした。  
このように私達は、あらゆるものから肉体も精神も育てて戴きまし  
た。  
育てて下さる方がいなければ、どうやって生きていけばいいのかも  
分からず、不安と恐怖で一杯でした。  
しかし、教え導いて下さる方のお蔭で、人の生き方を知りました。  
どんなに大変な事があっても必ず乗り越えられるという希望を戴き  
ました。  
そして、生きることが喜びになりました。  
人を育てる事は、人を救う道であり、こんなにも素晴らしい事だっ  
たのだと、ようやく分かってきました。  
自分が、あらゆる方々から育てて戴いた事の恩返しとして、  
自分もまた、後輩を育てる道を歩みたいと思います。  
私達を、育てて下さった全ての方々に、全ての体験に、  
感謝をしたいと思います。  
ありがとうございます。



次に、職員が考えました「育てて戴いた事への感謝」の文章を紹介したいと思います。

今回は、デイサービス介護職員の酒井佳代子さんの文章です。実体験を通して書かれた内容は、胸を打つものがありました。現在、後輩職員の育成に燃えている酒井さんの気持ちが伝わって来ます。

### 育てて戴いた事への感謝の言葉

デイサービスセンター介護職員 酒井佳代子

翠風園に働かせて戴く時に、先輩から「利用者様は、人生の大先輩です。とにかく仕える事、尊敬することです」と教えて戴きました。そして、正瑛会心得と翠風園心得の意味を分かりやすく教えて戴きました。

あれから入社して、いつの間にか九年です。

翠風園では、自分も人も育ち合うという精神があります。失敗してしまった事もみんなに報告し、ではどうしたら良かったのかという事を導き出し、結論を話し合います。とかく、人は失敗してしまつたらその事を隠しがちで、マイナスから逃げたくありません。失敗したら、怒られるという常識が、翠風園には無いのです。まるで自分がしたかのように、先輩達が悩んで下さる。そして、次に同じ失敗が起こらないように、話し合う。私はマイナスな事も、だんだん大好きになりました。翠風園で働

てきました。周りの先輩方をみてきたお蔭だと心から思えます。本当に有り難い環境です。

きちんと答えを出していく。お互いに学び合う。この精神を、今度は私も、先輩からして戴いたように後輩に寄り添い、後輩を育てていく事を行っていきます。それが今まで育てて戴いた恩返しだと、教えて戴きました。今までは、先輩がいるから自分は…と、人を育てる事をしてきませんでした。

これは最近の出来事ですが、自分より年が上の職員に對して、私が気付いた事を言わなければいけない事がありました。話す何日も前からどう言おうか、どうしたら相手の方に伝わるかと考えました。また、今度は言つてからも、ああは言つたが良かっただろうか、ああ言えば良かっただろうかと悩む日が続いたので。言つてからもその事で頭の中はいっぱいです。そして、その方に「言われてきつかった」と言われて、また落ち込み、その後「言つて戴いて有り難うございました」と言われて、喜びました。

私は自分がしてみても初めて、先輩方の苦勞の一欠片をようやく分かったのです。自分は、こうして育てて戴いたんだと。毎日毎日、頭の中は後輩を考え、仕事を想い、自分の家族のように共に悩み、喜びを分かち合う。この大切な想いを、今度は後輩と一緒に悩んで行きたいと思えます。

正瑛会の理念である「報恩・感謝・奉仕」を後輩にきちんと伝えて行きたいと思えます。

# 心に残った出来事 グループホーム編

グループホームでは、利用者様の誕生日にはお誕生日会を行っています。各居室担当者が中心となり、自分の担当の方の誕生会の予定を立てますが、ケーキ作りが得意な職員は、手作りケーキを作製したりと趣向も様々です。

今回は、介護職員の佐々木さんが描いた、利用者様の誕生日のお祝いの色紙を紹介したいと思います。その色紙を初めて見た時、思わず「素敵！」と声が出てしまいました。写真とはまた違う温もりを感じ、佐々木さんの愛が溢れているように感じられ、この色紙が完成するまでの経緯を知りたくなり、佐々木さんにお訊きました。

グループホーム介護職員 佐々木栄司

「きっかけは、自分の居室担当の利用者様の誕生会にあたり、写真より温かみのあるものにしようと思いました。特に、その利用者様は、写真よりもイラストの方が「良さ」が出ると思ったのです。

この絵は、カメラで撮影した写真をトレースし、絵の具で写真からイラスト風にアレンジしたものです。ですので、一から描くというより、写しているような手法です。

この手法ですと、一枚仕上げるのに早くも三十分から一時間位ですが、上手く行かない時は何時間も掛かる時があります。



描く上で気を付けている点は、その利用者様の特徴を思い浮かべ、あまり書き込まず、綺麗に仕上げる事。その方の人柄等が表現出来たらと思います」

以上のように話して下さいました。トレースという手法で、一本一本丁寧に線を描き、その利用者様にピッタリな言葉を添える佐々木さん。日頃から利用者様を良く観察していると思えました。真心がこもった色紙を利用者様も大変喜んで下さり、居室に飾って下さっています。



# ヘルパーステーション



正瑛会では、年の初めに職員一人ひとり、また各事業所でも一年の目標を立てます。そして一年が終わる十二月に、自分の立てた目標、また事業所の目標を振り返っての気付きや、感想の発表また反省などを行います。今回は、ヘルパーステーションに入社して二年に満たないヘルパーさんが、事業所の目標に導かれて見せて下さった、心の成長をご紹介しますと思います。

川本 広美

ヘルパーステーションでは、今年の目標を「ありがとう探し」をすることでしています。日々日常の中で「ありがとう」と感謝する事が沢山あり、感謝に気付く事で平穩に過ごす事が出来ます。私はホームヘルパーとして、利用者様のお宅に伺い、その方に必要な援助を行う仕事をしています。訪問し、利用者様に戴く笑顔や言葉の一つひとつがとても有り難く、温かく感じています。その日も、ある利用者様のお宅へ伺い、いつもの様にトイレ掃除をしようとトイレのドアを開けました。が、ドアを開けるとすぐ飛び込んで来た凄まじい状況を見て、ただ呆然と立ち尽くすしかありませんでした。

目に入ってきたのは、便器、床はもちろん、壁、棚、窓枠、ドア：至る所に付着した便、便器の中にはトイレブラシが突き刺さっており、荒れた凄まじい状態でした。

事業所のミーティングで、目標「ありがとう探し」の中身を深め「困難な状況、とてもありがたいとは思えない状況でも、ありがとうと言ってみる事」と教えて戴きました。ありがたいと思えない状況にありがとうはどういう事か？と、早速この状況で試してみようと思いました。そして次の事を、咄嗟に心の中で唱えてみました。

- ・こんなに汚れた状態のトイレにお招き戴き、ありがとうございます。
- ・沢山便まみれにして下さり、ありがとうございます。
- ・こんな困難に直面させて戴き、ありがとうございます。

すると、ありがとうございますと状況を受け止めた事で、(さあ、どうやったら要領良く、早く掃除する事が出来、元の綺麗なトイレに戻す事が出来るか)と、自分で自分に挑戦したい気持ちに変わりました。その後はただただ夢中で掃除をしました。綺麗になっていくトイレに喜びを感じました。





そして、我に返りへどうして、この方はここまでトイレを汚さなくてはならなかったのか？と、ふっと一つの疑問を持ちました。

この方は確かに身体の半身が不自由です。不自由が故に出来ない事もあるでしょうが、それにしても、壁についた便の塊、(こんな所が汚れるのか?)と思うような所にまで、これでもか、これでもか! という具合に、それはわざわざ汚しているかの様に思えてならなかったのです。

私はその方の状況を想像してみました。身体が思うように動かず、便意をもよおしたが間に合わず、誰もいない状況で、困った時に助けて欲しいと、叫びたくても助けを呼ぶ事も出来なかったでしょう。バランスを崩し、いつ転倒するか分からない恐怖、辛い気持ちを抱え、それでもトイレブラシが便器に突き刺さっていたので、ご自分で後始末をしようと必死だったのではないかと? でもやはり身体が自分の意思通りに動かず、思うように出来ない事に腹が立ち、苛立ちをトイレに全てぶつけたのではないかと?

私が同じ状況だったら...。誰も助けてくれない不安、孤独。身体が思うように動かない怒り苦しみ。自分の後始末が出来ない情けないと思う気持ち...。想像を超える苦しみに押しつぶされそうになり、こんな自分を消して、全てを壊してしまいたくなる衝動にかられるだろうと、胸が苦しく締め付けられる思いがしました。

このトイレの状況は、そんな利用者様の叫びだったのではないのでしょうか? ヘルパーの私が受け止められず、誰がこの方を受け止めて下さるのだろうか? ご本人はトイレの状況を百も承知のほうです。私がトイレの話をする事は、傷口に塩を塗るようなものだろうと思いい、その事には一言も触れず、普通に接し、ご本人には体調の確認だけ行いました。

もし、私が「困難な状況をありがとうございます」と受け入れる事が出来なかったら、最後まで(こんなに汚れたトイレを掃除する私は、なんて可哀相、ひどい場面に出会ってしまった気の毒な人間)と、自分だけが可愛い、自己中心的な考え方をするしか出来ず、大切な利用者様の本当の気持ち、心の叫びを押し量ろうとする事が出来なかったと思います。それだけでなく、利用者様がそんな私の身勝手な行動に、心を閉ざしてしまっていたかもしれない。

「困難な状況にもありがとうございます」と思えた事で、大切な事を学ばせて戴き、また「ありがとうございます」の言葉のパワーを再発見しました。その事がとても有り難かったです。



# ホームページリニューアル

この度、正瑛会のホームページが新しくなりました。今回、出来上がるまでの過程をご紹介したいと思います。

今迄のホームページを見直した際に、「写真を新しくしたい、もっとページを増やしたい、今迄の心に残った話を掲載したい」と数々の希望が出て来ました。そこで、「正瑛会らしい温かみのあるホームページを作成して下さる会社は無いだろうか」とウェブ制作会社を探す処から始まりました。様々な会社のホームページの中、「凄い！ 綺麗！」と心が躍った会社がありました。それが後に作成をお願いする事になる『にいがた三味』さんのホームページでした。

新潟の未来マップが描かれており、色鮮やかで、夢が膨らむ様なデザインです。



新しいホームページのトップページ  
(1番最初にこの画面が表示されます)

また、「活気あふれる新潟を創りたい」と、新潟の魅力の世界に発信したいという想いで作成されている事を知りました。

「正瑛会の魅力も引き出して下さるのではないか」と思い、作成をお願いする事になりました。

最初の打ち合わせの時、「スピリチュアル・ケア」について説明を致しました。話を熱心に聴いて下さっていた社長の五十嵐様が、「高齢者の方が多かったから出来た施設ではなく、地域の方への恩返しという想いから出来たんですね。利用者様への感謝や恩返しという根本の考えがしっかりしており、そこから色々な発想が出来る。私も翠風園に通いたくなりました。この様な介護施設が全国に出来るとうれいですね」と仰って下さったのです。社長の五十嵐様のお話を伺いながら『にいがた三味』様にホームページの制作をお願いして良かったと、感動で胸がいっぱいになりました。

制作が始まり、これまで行って来た数々の感謝祭の文章から、掲載したい内容を探したり、心に残った出来事を職員の皆さんに訊いて回りました。また、その内容が初めて読んだ方にも分かり易くなる様に、作成担当の高坂様が更に手を加えて下さいました。

私達が伝えたい想いを生かしつつ、ホームページを見る方にも伝わり易く、見やすくなる様に、様々な創意工夫して下さいました。私達が望んだ事を叶えられる様にと、様々な方法を考えて下さいました『にいがた三味』の皆様は、感謝の想いでいっぱいです。





翠風園のホームページ作成を担当して下さいました、高坂様にお話を伺いました。

・翠風園の印象を教えてください

今まで介護施設様に対しては「お世話をしてくれるところ」「介助をしてくれるところ」という勝手なイメージを持っていたのですが、翠風園様は「ともに笑顔で過ごす場所」という印象を受けました。

特にグループホームでは、皆様お一人ずつお部屋があるのに、多くの方が居間空間に集まっていったりやるのに驚き、本当に家族というコミュニティが育まれていらっしやるのだなと思いました。

施設の様子や広報誌等を見させて戴いたり、寺崎様と押味様から翠風園様の思いや理念についてお話し戴いた上で、色々と感動する事も多かったです。私以外のスタッフも、設立十周年の記念誌を読んで「感動しました」と言いながらリニューアルサイトを制作しておりました。

・高坂様がホームページを作る際に注意されている事は？

「目線」を大事にしています。それは「ユーザー目線」、「お客様目線」「制作者目線」とあります。例えばサイトを訪れてきてくれたユーザーは、サイトからどういった情報を知りたいと思うだろうか、この表現できちんと伝わるだろうかということに注意し、

「お客様目線」においてはお客様(翠風園様)からのリクエストをただただ受け入れるのではなく、どうしてそう思われたのかということから対応、提案をするようにしております。「制作者目線」というのは制作者目線になり過ぎてお客様の意図していることから外れたものを作ってしまったのではないかとというチェックをする上で意識しています。

・翠風園のホームページを作る際に心がけられた事は？

翠風園様の雰囲気、施設の特長を見た方にしっかりと伝えられるようにという点を特に意識しています。翠風園様の良さを表現できるように、やさしい色使いのデザインで、皆様の笑顔の写真をたくさん載せられるよう心がけました。

また、サイトを訪れた方に翠風園様のたくさん魅力やサービスが簡潔且つしっかりと伝わり、ご納得していただけるように、全体だけでなく各ページの構成や流れ、文章にも注意して制作しました。

・これから翠風園のホームページを見る方に一言

翠風園様の魅力満載のサイトに仕上がりました。翠風園様から、利用者様の様子などの情報もどんどん発信できる様になっておりますので、ぜひ更新を楽しみに見て戴ければと思います。

## 編集部より

ひかり通信が今回で第十号となりました。デイサービスではホールに、翠風園で発行した「ひかり通信」や「十周年記念誌 桜の道しるべ」を置いてあります。書物は他にも沢山用意してありますが、その中でも利用者様はひかり通信などを良く手にとって読んで下さっています。写真なども沢山掲載されていますので、それが利用者様同士の話題となり、楽しそうにご覧戴いています。そして時々、利用者様から読んだ感想を聴かせて戴いています。

今年デイサービスを利用開始された利用者様から、とても嬉しいお話を伺いましたので、ここで紹介させて戴きます。その利用者様は、数年前から翠風園のヘルパーを利用されて、今年の春からデイサービスも利用される事になりました。



## 利用者様からのお話

「ヘルパーの主任さんから冊子をもらった後、ひかり通信と桜の道しるべは、家で毎日読んでいますよ。不思議と手にしたくなるんです。内容をじっくりと読む時は、なるほどと関心しながら読んでいます。

ページをぺらぺらとめくるだけの時もありますが、写真や色使いをみているだけでも楽しいです。

私は一人暮らしですが、冊子を読むと心がポカポカ温まるんです。本当にありがとうございます。

最初は、自分がお世話になる場所の事を知りたい！と思って、読み始めました。そのお蔭で、職員さんの名前も覚えて、デイサービスで会うと「あっ、職員紹介に出ていた佐藤さんだ。鈴木さんだ」と嬉しくなります。

あと、記念誌に書いてあったステンドグラスを、初めてデイサービスのお風呂に入れてもらって眺めた時、「わあ、綺麗ー」と、しばし見とれてしまいました。実際に自分の目で見る事が出来て感動しましたよ。

冊子は、色々良く書かれていますので、これからも頑張って下さいね。楽しみにしています」

以上のように話して下さいました。このように、広報誌などを通して、利用者様が翠風園の事を知って下さったり、喜んで下さる事が、とても有り難いことだと思います。

編集部一同、これから編集作業に励んで参りたいと思います。励みになるお話を、本当に有り難うございました。